

まちづくり人材育成支援のご紹介

人材育成事業まちづくり広報講座

町内のおすすめスポットや、自身のコミュニティ活動をもっとPRしたい市民へ向けた「街の魅力を探した・伝えた講座」を開催しました。講師には、地域月刊新聞「Face to Face」編集長の星野大輔氏、ライター兼フォトグラファーの飯田耕平氏をお招きして、SNSで共感される文章、写真、企画の秘訣を学びました。



本講座には各地区まちづくり協議会役員のほか、一般市民の方も参加!! 講座終了後のアンケートでは、まちづくり協議会のSNS運営に協力したいという回答が多く、今後のまちづくりの広報の活性化に期待がかかります。



- 第1回 PRと情報発信のキホン・ネタ探しのコツ
- 第2回 失敗しない写真の撮り方
- 第3回 読みたくなる文章の書き方
- 第4回 ワークショップ (1)
- 第5回 ワークショップ (2)



- 第1~3回** 情報発信の基本や写真の撮り方や文章の書き方のコツ教わり、新しい知識を習得しました。
- 第4回** 事前に「近所の魅力的な街の写真」を受講生に撮影してもらい、その寸評会を行いました。プロからのフィードバックに受講生も大盛り上がりでした。
- 第5回** 班ごと「街の魅力的な紹介記事」を作成・発表しました。どの班も講座で学んだことを活かした、地元愛溢れる発表でした。

<p>1 班 「すごいが普通ってすごい!」</p> <p>富士山が見える日常のすばらしさを表現</p>	<p>2 班 「遊具だけじゃない! お子さんと見つけよう公園の秋」</p> <p>町内にある公園の木々や草花にフォーカス</p>	<p>3 班 「江戸の街道へタイムスリップ」</p> <p>旧東海道が走る岩淵地区にある歴史的な建造物を紹介</p>
--	---	---

地区まちづくり活動の会計管理の強化に向けた支援について

みなさんの地区のまちづくり協議会の会計でお困りのことはございませんか?

予算書や決算書の見方がわからない。

引き継ぎが上手くできていない。

前任の会計担当者の残した帳簿がよくわからない。

など、苦労されていると思われます。まちづくり課では地区の会計管理に役立てるよう、様々な支援を行っています。

まちづくり会計講座

毎年、まちづくり協議会の日常の会計処理やそれに伴う事務スキルを習得することを目的とした会計講座を実施しています。

今年度は、公認会計士を講師にお招きし、会計の基礎や複式簿記と財務諸表の基本について学びました。

▲会計講座のようす

富士市まちづくり会計の手引き

今年度、「富士市まちづくり会計の手引き」を作成しました。まちづくり協議会の活動に必要な資金は、住民から集めた会費や行政から交付される補助金などが原資ですので、お金の管理のルールを決め、そのルールに従ってきちんと管理していくことが大切です。

この手引きは、一般的な会計処理の原則を掲載しています。新しく会計を担当する方にも分かりやすい内容となっていますので、引継ぎなどに活用ください。

▲会計の手引き

左の二次元バーコードからご覧いただけます。

会計簿EXCEL

会計簿EXCELは、基本的な情報の入力と、現金出納簿のシート1枚を入力していくだけで、会計伝票や決算書などが作成できます。

富士市ウェブサイト最新のデータを掲載していますので、よろしければご利用ください。

▲二次元バーコード

新 コブタレポート

No.25

コブタのまちづくり知恵袋 Newsletter

TOPIC



三重県 名張市



滋賀県 草津市

令和5年10月にまちづくり協議会連合会の役員24名で、まちづくり先進地である三重県名張市、滋賀県草津市への日帰り視察を行いました。両市とも制度としては、「指定管理者制度」を導入し、一括交付金を財源に、まちづくりセンターを拠点に自由な活動を行える環境が整備されています。

ここではまちづくり協議会設立経緯や市からの財源的支援策、コミュニティビジネスの事例などについて紹介します。

視察項目1 指定管理者制度の導入

<p>名張市 導入経緯</p> <p>民間活力導入を目的に開始。財政非常宣言をし、行財政改革の一環とした面もあり。</p>	<p>草津市 導入経緯</p> <p>「自分たちのまちは自分たちでつくる」ために、人口減少社会を見越し、地域課題の解決と魅力向上を目指し、その拠点として導入。</p>
--	--

視察項目2 コミュニティビジネス

- | | |
|---|---|
| <p>名張市</p> <ul style="list-style-type: none"> ●市有地の管理 ●草刈り ●コミュニティフェ ●レストラン ●井戸水販売 ●夕方販売 | <p>草津市</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地ビール販売 (共同:立命館大学) ●貸し農園 ●グリーンマーケット |
|---|---|

例えば...

名張市では
少子高齢化が進むため、福祉事業に重点を置く。

まちの保健室事業などの高齢者支援事業をまちづくりセンターで開催している。

草津市では
大学や企業が進出し、現在も人口が増加しているため、移住してきた子育て世代に目を向けている。

特に、自治会加入率が低下している中心部では、親子を対象とした事業を開催。若者世代との接点(関係人口)を意識的に高めていた。(親子農園やまちづくりセンターへのイルミネーション設置など)

メリット
地域の特色でセンターを運営できること

デメリット
・地域間の格差が出ること
・大きな金額を扱うことによる地域の不安感が増す

視察項目3 住民への広報手段

名張市 草津市

公式LINEにて周知。行事やイベントにおける当日行事やイベントにおける当日の雨天中止などは、回覧板での周知が難しいため、活用が進んでい。併せて定期的な広報誌(紙媒体)の発行も行っている。



参加者の声



今後、富士市でも両市のような現状に合った行政からの支援を望みます!

持続可能なまちづくりを意識していきたい!

中面は

特集 まちづくり交流会

をお届け!!



今年も開催 まちづくり交流会 紹介します！

令和6年1月27日、富士市交流プラザと駅北まちづくりセンターを会場にして、まちづくり交流会が行われました。

前年は各ブロックのまちづくりセンターに参加者が集まるリモート開催となりましたが、本年は、地区の中核を担う方々が一堂に会して開かれました。

この記事では、交流会で行われたパネルディスカッションの様子を、いくつかのキーワードをもとに、皆様へお届けします。



▲交流プラザ2F 多目的ホールにおけるまちづくり交流会の様子。

パネルディスカッション テーマ「住民参加による主体的なまちづくり」 ～まちづくり活動に若い世代を巻き込むには～

このテーマは、今年度まちづくり交流会全体の共通テーマです。今回紹介するパネルディスカッションにおいても、モデレーターである川北秀人氏は、「富士市の人口推計を見ると、子どもの数が伸び悩むと予測されており、対策が必要。併せて、現在でも増えつつある若者や子育て世代の方々に、地域づくり活動に関心を持ってもらい、参加していただくことが、より一層重要になる。今日は、パネラーの皆さんに、そのためにはどうするべきか、そして若者の方々にどのように地域づくりに参加してもらうのが望ましいか、伺いたい」と冒頭で述べて、ディスカッションが始まりました。

地区活動の一例をご紹介します。



クリスマスイブに公会堂が宿題をやる場所へ。合間に高齢者との交流時間も【富士南地区（森島区）】



まちづくりセンター駐車場で朝市や子ども食堂を開催。指定管理だからこぞできるコミュニティビジネスの例【（一社）松野地区まちづくり協議会】

まちづくりを取り巻く現状について

前例踏襲型のイベントから、住民のニーズに応じた生活密着型の事業が今後の進むべき方向と思う。2年前から、全26地区をつなぐまちづくり協議会連合会が設立されている。情報交換・協力の場として、より活用していきたい。【齋藤氏】

松野地区では、2年前からまちづくりセンターを指定管理で運営している。地区拠点としてのより一層の活性化と、コミュニティビジネスを行うことが狙いだ。私は、これからのまちづくりに携わる方は、無償ではなく、有償ボランティア型でまちづくりに関わっていくべきだと考えている。【高田氏】

富士市のまちづくりは転換期を迎えている。地区の問題解決に取り組んでいく課題解決型への転換が必要だ。また、イベントをより魅力的なものにし、地区の絆を深めていくことも重要である。【市長】

まずは、住民のニーズを把握することが大切です。そのためには中学生以上の住民全員を対象にしたアンケートも有効な手法です。【川北氏】

人のつながり

各地区の課題とは、市全体の課題である。市内には、「子育て」、「環境」、「防災」といった課題に取り組む市民団体が多数ある。市民活動センターでは、そうした市民団体と地区との橋渡しができる。是非ご相談いただきたい。【今屋敷氏】

若者世代が参加しやすい体制を常に考える必要がある。例えば私の所属する「こぶしの会」では、地区の子ども会のような役割を担っている。こうした市民団体と一緒に、まちづくりを運営していくのも、可能性の一つなのではないか。【本多氏】

大学生の団体であるサークルの多くは、SNSのアカウントを持っている。そうしたアカウントにDM（ダイレクトメッセージ）を送ることで、学生たちとコンタクトをとることができる。【原田氏】

これからのまちづくり

「好きという気持ちと助け合いでゆるやかにつながる」これがこれからのまちづくりのキーワードだと思う。まちづくりに参加してほしい世代の好きなこと、悩んでいることを理解することが大切。【本多氏】

地元を離れた大学生でも、地区行事に参加できる機会があると嬉しい。大学生にも伝わる情報発信をしていただきたい。【原田氏】

現在富士市には、子育て世代や外国人の方の移住が増えている。そうした方々と、地域の課題と魅力を共有することが大切だ。また、若い世代の方々が数十年後の先でも、安心して暮らしていけるために、まちづくりにおいてもSDGsとゼロカーボンを是非皆様に意識してほしい。【市長】

交流会の中でも、人材が見つげづらいという話があった。でも例えば日曜日の公園に行けば、子育て世代の方々と簡単に会える。そうした場にまちづくりの輪を広げることが、人材発掘の第一歩かもしれない。【今屋敷氏】

役員として活動する人も重要だが、これからは自分の好きな事、得意分野を生かして活動する柔軟さがあってもいいと思う。【齋藤氏】

「やらなきゃ損！」と思ってもらえるような活動を考えていきたい。まずは、小さなことから行い若者層を増やしていく。【高田氏】

情報発信・共有

地区のSNSをフォローしてくれた人にも、イベントで使える商品券や電子クーポンを配布すると効率的にフォロワー数が増える。【原田氏】

SNS等、情報発信の方法に困ったら、市民活動センターにご相談を。【今屋敷氏】

打ち合わせにはZOOM、意見交換はLINEを活用。【本多氏】

地区の情報発信は、活動案内や出来事の掲載が多い。加えて、全住民調査から「こういうことに困っています。協力してください」といった、相談ごとの発信でも良い。【川北氏】

👉 注目！

市民活動センターでは、富士市で活動する市民団体のガイドブックを作成しています。気になる方は下の二次元バーコードをチェック！webからご覧いただけます。



参加者 敬称略

- モデレーター
川北 秀人
I I HOE
(人と地球のための国際研究所) 代表
- パネラー
小長井 義正
富士市長
- 今屋敷 正成
富士市民活動センター
コミュニティセンター長
- 本多 さくら
市民活動団体「ふじママサロン」
「こぶしの会」

- 原田 紗希
静岡大学3年生
- 齋藤 清隆
富士市まちづくり協議会連合会会長
- 高田 貢
(一社)松野地区まちづくり協議会会長

静岡大学学生発表 田子浦地区まちづくり協議会事業に参加して

令和5年度、静岡大学の学生さんたちが、田子浦地区のイベントに参加し、若者目線でまちづくりを考えるプロジェクトを行いました。交流会で行った研究成果の報告を、川北秀人氏の見解も交えながらご紹介いたします。

スポーツイベント

男女問わず、全ての世代の方が楽しめる行事になっている。しかし、若者の目を惹く広報の仕方が必要。



▲スポーツイベントの様子

川北氏 イベントの内容について、eスポーツなど、新たな要素を取り入れてみては？ tips

避難所運営訓練

学生ボランティアの参加が多く、積極的に活動していた。当日スムーズに進めるため、資料の配布だけでなく、事前説明会を開催するなどの工夫が必要。

川北氏

資料は紙だけではなく、動画と合わせると効果的。tips SNSを利用した災害時の情報共有訓練を！発信時は文頭に「〇〇地区 氏名」と名前を付けて可否や状況を投稿することがポイントです。



▲田子浦小学校にて、避難所運営訓練をしました。

最後に

交流会の場で皆さんがよく口にされていたのは、これからのまちづくりに望まれることは、従来踏襲してきたやり方からの脱却。より地域住民の方の要望に沿い、より地域が抱える問題を解決できるようなまちづくりになっていかなければならない。という意見です。

そのためには地域の実情に応じた、地域ごと特色のあるまちづくりが必要です。そうした取り組みがまた、今回の交流会の主題でもある、若い世代のまちづくりにへの参画に繋がることかと思えます。

パネルディスカッションの最後の場でも市長の発言に「26地区一律の補助金を改め、地域がより主体的に、裁量をもって予算を組んで、地域の課題解決に取り組んでいけるよう推進していきたい。まちづくりの在り方は26地区あれば26通りあってよい」とあったとおり、富士市ではこれからも地域の皆さんが抱く理想のまちづくりを実現するため、地域それぞれの実情に合った支援を行ってまいります。